

都道府県番号	45
都道府県名	宮崎県

()

・学校名及び規模

南郷町立南郷小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	3	3	3	1	18	29
児童数	76	83	60	87	87	88	2	483	

・実践研究の概要

<p>・主題(テーマ)</p> <p>自ら進んで学習に取り組み、確かな学力を身に付けていく児童の育成 ～ 基礎的な学力を身に付ける指導方法の工夫を通して ～</p> <p>・テーマ設定の趣旨</p> <p>児童の実態から、学力向上を図る必要性があり、個に応じた対応を充実していく必要があるため全学年の算数に取り組むこととした。</p> <p>仮説の一つとして「評価を生かした指導を行い、評価に基づく効果的な手立てを講ずれば、児童がやる気と自信をもち、基礎的な学力を身に付けることができるだろう。」を設定している。</p>
--

・実践研究の内容について

- () 研究体制の工夫
- ・指導に生かすための評価の研究
 - ・少人数指導における評価の研究
 - ・評価を生かした指導案の工夫 などをやっている。

() 実践研究の内容

ア 習熟度別学習の進め方と評価

<p>「たまごチェック」 ～ レディネステスト</p> <p>児童・保護者と相談してコースを選ぶ</p> <p>じっくりコース、ばりばりコース</p> <p>「ひよこチェック」 ～ 毎時間ごとにその時間の目標にあった問題を行い、その時間の理解度をチェックする。(5・6年生は「チェック問題」)</p> <p>「にわとりさんへの連絡カード」 「にわとりさんへの一言」(保護者のはげまし)</p>
--

- イ 保護者向けの少人数指導の取組についての文書より(抜粋)
習熟度別指導について(学習の進め方・グループの分け方)
- ・ じっくりコースとばりばりコースに分かれて学習を行っていきます。
 - ・ じっくりコースもばりばりコースも達成目標は同じです。
 - ・ じっくりコースでは、ヒントや具体物を使い基礎・基本を確実に身に付けていき、定着のための繰り返し学習を行っていきます。
 - ・ ばりばりコースでは、基礎・基本をもとに、いろいろな方法や考え方を児童が見出していき、またいろいろな問題にも挑戦していく学習です。
 - ・ 習熟度別指導は単元(学習のまとめり)の最初から習熟度別グループに分けることもあれば、1単元時間での「習熟」の段階でのコース別指導と様々な方法で弾力的・流動的に考えて行っていきます。

学習グループの分け方について

- ・ 診断的評価(たまごチェック)による教師側だけの判断だけでなく、子ども自身の振り返りや保護者の選択によってもグループ分けの参考にしていきます。
- ・ 形成的評価(ひよこチェック)によって、子ども自身の選択や教師の判断によって、いつでも、また、学習の途中からのグループの移動も可能です。

グループの人数について

- ・ 習熟度別指導では、理解度によって人数が変わります。確実に考え方や方法を身に付けていくじっくりコースは、一人一人に個に応じた指導や助言が必要となります。したがって、人数の少ないグループになります。

「たまごチェック」・・・新しい単元の始まる前に、その単元に関わりのある前学年までの内容の復習を行い、どれくらい定着しているのかを調べます。

「ひよこチェック」・・・毎時間ごとにその時間の目標に合った問題を行い、その時間の内容が理解できたかどうかを調べます。(5・6年生は「チェック問題」)

保護者のみなさまに

ひよこチェック(5・6年生は「チェック問題」)は、毎時間の児童自身の自己評価並びに、次の時間への指導のためのチェックです。子どもたちにとっては、その時間を振り返り、次の時間への意欲にもつながるものです。

単元の終わりにひよこチェックと一緒に「にわとりさんへの連絡カード」を持って帰りますので、見ていただき、励ましの言葉を書いてもら

った時の、子どもたちの喜んだ姿が大変印象的でした。保護者の皆様のご理解とご支援をよろしく申し上げます。

【資料】

たまごテスト(4年)の一部

ひよこチェック(4年)の一部

1 筆算をしましょう。

254	408	
+ 367	+ 193	+
376	601	
- 168	- 249	-

2 340円の色えんぴつと185円の画用紙を買います。いくらになりますか。

(式)

答え _____

(式と計算) 10月 日()

めあて _____

【チェック】1本40円のえん筆と1こ60円のキャップを組にして買うことにしました。1000円では何組買えるでしょう。()を使って、一つの式に書いてもとめましょう。

(式)

答え _____

今日の勉強をふりかえって
自分なりによく考えて取り組んだか？

- -

() 成果と課題

成 果

- ・ 評価に関する理解を深め、診断的評価や形成的評価などの評価活動を実践したことで、児童を多面的に理解し、支援に生かすことができるようになった。
- ・ 習熟度別少人数指導を実施したことで、一人一人への関わりが多くなったとともに、実態に応じた指導内容を生かすことができた。
- ・ 「じっくりコース」の中で、主役になれる児童がでてきた。

課 題

- ・ 評価計画に基づいた評価活動のさらなる充実と評価を生かした指導の工夫を図っていきたい。
- ・ 児童が自分のコースを決定する際に、客観的に自分の実力を判断する力を親も子も付ける必要があると同時に、その促し方を考えていきたい。
- ・ 2つのコースのボーダーラインの児童への対応の仕方について、今後検討していきたい。
- ・ 子どもたちが自分たちの活動場面や内容を振り返ることのできる環境設営の充実を図り子どもたちの関心や意欲を高めるようにしたい。

() 成果の普及方策

毎年2学期、地域の学校に授業を公開し、成果の普及を図る。